

地域保健論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1 地域保健の位置づけやその構造を理解し、具体的な活動や医療制度について理解する。
- 2 地域保健が目指す新しい健康の概念や地域集団としての健康づくりへの取り組みの例に着目し、今後の地域医療の在り方について考えることができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	地域保健とその構造
2	保健・医療・福祉の組織と活動
3	地域保健① 保健所の組織と業務
4	地域保健② 市町村保健センターの組織と業務
5	救急医療① 救急医療体制
6	救急医療② 救急救命士
7	災害医療① 医療における災害の定義と解釈と災害拠点病院
8	災害医療② 災害時保健医療活動
9	災害医療③ トリアージ
10	へき地医療 へき地保健医療対策と遠隔医療
11	在宅医療① 在宅ケア
12	在宅医療② 訪問診療・往診と訪問看護制度
13	在宅医療③ 訪問及び通所リハビリテーション
14	チーム医療
15	保健・医療・福祉の連携

【履修上の注意事項】

- 1 ペアによるディスカッションをするため、ペアを作って着席する。
- 2 すべてのペアに発言の機会があるので、常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】

ディスカッションへの参加40%，課題提出20%，期末試験40%で評価する。
再試験は実施しない。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

毎回、資料を配布する。参考資料については、授業の中で随時提示する。

環境生物学

担当教員 松岡 正佳

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

微生物は私達の世界の一員として、多くは生命の維持に必要であり、また食品製造に使われているものもある。しかし少數の微生物は人間に病気を引き起こす病原菌であり、この授業では病原性微生物に焦点を当て、それらが人間との摩擦を起こす原因や環境要因について学ぶ。微生物の正確な知識を習得し、伝染病の防御の方法や、どのようにして微生物とうまく付き合っていくかについて知識を深める。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	微生物の挑戦とはどういうものか。伝染病の引き起こされる要因について考察する。
2	微生物の世界。微生物界を形成する多様な微生物種とその性質について学ぶ。
3	微生物の有益な側面。コインのもう一つの面。
4	細菌（バクテリア）。
5	ウイルス。
6	細菌の遺伝学。細菌における遺伝的交雑の機構について概観する。
7	微生物病の概念。微生物とその宿主の出会いは偶然であるという事実を認識する。
8	疫学と微生物病の周期および院内感染。
9	細菌による病気と感染経路。
10	ウイルスによる病気と感染経路。
11	原生動物および寄生虫による病気と感染経路。
12	免疫反応。免疫系により微生物由来の外来分子が認識・排除される機構について学ぶ。
13	微生物病の管理。対処方法について知る。
14	伝染病の管理における協力。伝染を防ぐ効果的な協力体制について知る。
15	生物兵器や現代の伝染病。この授業のまとめ。

【履修上の注意事項】

Power Pointを使った説明の後、設問が与えられる。次回までに解答しておいてください。

【評価方法】

3回のテストの合計点で評価します。

【テキスト】

プリントを配布します。

【参考文献】

The Microbial Challenge第2版、Jones and Bartlett Learnings (2010年、英文)

学校保健

担当教員 古賀 由紀子

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

児童生徒の発育・発達、健康、そして学校教育法につながる指導要領等の教育の基礎を把握するとともに、児童生徒の実態から保健教育・保健管理・組織活動の諸活動を考える。これら学校保健活動の計画と組織を教育計画と学校組織との関連でとらえ、教育の中の学校保健の全貌を述べることができる。

【授業の展開計画】

古賀：養護教諭として公立学校勤務経験

週	授業の内容
1	学校保健概論・・学校保健と関連法、学校保健の目的、学校保健の構造
2	学校保健概論・・学校保健の歴史、社会情勢との関連
3	学校保健計画・・学校教育目標との関連、保健室経営との関連
4	学校保健組織活動・・学校保健関係者と各々の職務、学校保健組織と運営、関連組織
5	学校保健の対象・・児童生徒の発育発達の現状と課題
6	学校保健の対象・・健康の基礎理論、実態
7	学校保健の対象・・心の健康問題、精神保健
8	学校保健活動・・保健管理：領域側面、意義、方法
9	学校保健活動・・保健管理：健康観察、健康相談
10	学校保健活動・・保健管理：健康診断、保健調査
11	学校保健活動・・保健管理：学校環境衛生
12	学校保健活動・・保健管理：感染症予防
13	学校保健活動・・安全管理：学校安全と危機管理、救急処置
14	学校保健活動・・保健教育：学校における保健教育の考え方、保健学習と保健指導
15	学校保健活動・・性教育、薬物乱用防止教育、食育

【履修上の注意事項】

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく(60分)。授業の復習を行うこと(60分)

。毎回、授業の振り返りと質問等を最後にかかるが、内容を確認し、次時に返却する。
質問に対しては授業の最初に応える。

【評価方法】

筆記試験85%, レポート15%により評価する

【テキスト】

学校保健ハンドブック第5次改定 教員養成系大学保健協議会

【参考文献】

新訂 学校保健実務必携 第一法規

養護概説

担当教員 古賀 由紀子

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

養護教諭の職務である保健教育、保健管理、救急看護、学校保健経営の4機能を理論的に理解し、具体的な職務内容と方法論で実証し、学校運営の中で、そして学校保健の各領域で養護教諭の職務がどう機能化するかを述べることができる。

【授業の展開計画】

古賀：養護教諭として公立学校勤務経験

週	授業の内容
1	養護の概念
2	養護教諭制度と歴史
3	養護教諭の専門性、養護教諭の倫理
4	養護教諭の活動拠点保健室一その役割と機能
5	養護教諭の活動拠点保健室一保健室経営計画
6	養護活動の過程
7	養護教諭の実践一 1 健康実態・健康問題の把握 (健康観察・保健調査)
8	養護教諭の実践一 2 健康実態・健康問題の把握 (健康診断)
9	養護教諭の実践一 3 支援の方法 (救急処置活動)
10	養護教諭の実践一 4 支援の方法 (健康相談)
11	養護教諭の実践一 5 養護活動の展開
12	養護教諭の実践一 6 環境整備 (感染症予防、学校環境衛生)
13	養護教諭の実践一 7 健康教育活動 (保健指導、保健学習、保健だより)
14	養護教諭の実践一 8 組織活動
15	養護教諭と研究

【履修上の注意事項】

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく(60分)。授業の復習を行うこと(60分)

。毎回、授業の振り返りと質問等を最後にかかるが、内容を確認し、次時に返却する。
質問に対しては授業の最初に応える。

【評価方法】

レポート15%、筆記試験85%として評価

【テキスト】

- ・新訂 養護概説 編集代表 三木とみ子 ぎょうせい
- ・「新訂版学校保健実務必携」 学校保健・安全実務研究会 第一法規

【参考文献】

冊子「学校保健」松本敬子編、「養護教諭の授業づくり」松本敬子他 東山書房

健康相談論

担当教員 古賀 由紀子

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

児童生徒の心の健康問題が深刻化し、保健室でも心身両面の対応が養護教諭の重要な職務として位置づけられていることを理解する。また養護教諭の専門性や保健室の機能を生かした相談活動としての「健康相談」について理論と方法について学習し、具体的に子どもの状態のとらえ方と対応について述べることができる。

【授業の展開計画】

古賀：養護教諭として公立学校勤務経験

週	授業の内容
1	自走生徒の心身の健康問題の現状と背景/健康相談の基本的理解
2	養護教諭の職務の特質及び保健室の機能と健康相談
3	健康相談と健康相談活動（学校保健安全法との関連）
4	健康相談に関する諸理論
5	健康相談のプロセス
6	ヘルスアセスメントについて
7	健康相談における子ども理解の方法（演習含む）
8	健康相談での心理的理
9	健康相談における連携
10	諸問題のとらえ方と関わり方
11	諸問題への具体的な対応について
12	事例から相談支援を具体的に学ぶ① 疾病を伴う事例
13	事例から相談支援を具体的に学ぶ② 非社会的行動、反社会的行動、生活上の課題を持つ事例
14	保健室登校と不登校のとらえ方と対応
15	健康相談における記録、力量形成・研究・研修

【履修上の注意事項】

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容についてテキスト及び他の文献を用いて調べておくこと。
(60分)

授業の最後に振り返りのための課題を提示するので、それを踏まえて振り返りまとめておく。次の授業の最初に前回のまとめを提出する。(60分)

【評価方法】

レポート30%、まとめのテスト70%として評価する

【テキスト】

養護教諭の行う健康相談 大谷尚子・森田光子編 東山書房

【参考文献】

学校保健実務必携

生活栄養学

担当教員 本田 榮子

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

○食べ物と健康という観点から、基礎栄養学、食物の消化・吸収、栄養素の特徴や役割、臨床栄養学の面から疾病と栄養の関連について理解し、自らが幅広い視野と知識を身につけ実践する事、特に食事や栄養に関する情報量が急増している中、自身や人々の健康の維持増進に努めてもらう事が出来るようになってもらいたい。なお、医療従事者として、様々な身体的状況にある人々に接する際に、自身が学んだ食・栄養面の知識を、効果的に行う技法や体験を活かし、サポートすることで自らも健康的な食生活が実践出来るようになる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション・栄養の基本概念(栄養とは 健康と栄養評価 食行動と管理目標)
2	食生活の課題 (食と環境 食と健康 食文化)
3	日常生活と栄養 (食習慣と栄養 日本人の食事摂取基準)
4	栄養指導・保健指導 (栄養指導の過程と栄養スクリーニング、特定健診・特定保健指導とは)
5	栄養素の機能と代謝 (1) 炭水化物の種類、エネルギー
6	栄養素の機能と代謝 (2) 脂質・たんぱく質の種類、代謝、栄養
7	栄養素の機能と代謝 (3) ビタミン・無機質の種類と代謝
8	食物の摂取と消化・吸収 (食欲・消化の調節栄養素の吸収)
9	ライフステージと栄養 (妊娠・授乳期・乳幼児期・)
10	ライフステージと栄養 (学童期・思春期・)
11	ライフステージと栄養 (成人期・老年期)
12	疾患別食事指導の実際 (1) 糖尿病、高血圧、脂質異常症
13	疾患別食事指導の実際 (2) 虚血性心疾患 脳卒中等
14	疾患別食事指導の実際 (3) 慢性腎臓病 摂食嚥下障害等
15	経管栄養と中心静脈栄養 (栄養療法 経腸・静脈栄養法・栄養管理におけるチームアプローチ)

【履修上の注意事項】

履修の中で、各単元の理解を把握するために演習課題を出すので、テキストと配布資料、テキストの副読本としての「栄養学整理ノート」をもとに、きちんと予習復習をし受講すること

【評価方法】

筆記試験95% 学習態度5%

【テキスト】

「わかりやすい栄養学 第4版 -臨床・地域で役立つ食生活指導の実際-」ヌーヴェルヒロカワ

【参考文献】

わかりやすい栄養学（三共出版）基礎栄養学（第一出版）日本人の食事摂取基準（2015年版）七訂補日本食品成分表、国民衛生の動向29年版 糖尿病の食品交換表 腎臓病の食品交換表、応用栄養学（医歯薬出版）

解剖生理学 I

担当教員 二科 安三

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人体各部の構造と機能を勉強する。本講義で中心となる臓器は消化器系、血液および循環器系、呼吸器系、泌尿器系であり、その周辺（たとえば神経系等）にも注意を払いつつ勉強する。適切な教科書を指定するので、その7割程度は理解して他人に解説できるようになること。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	はじめに 解剖学・生理学
2	栄養の消化と吸収 1 口・咽頭・食道・胃の構造と機能
3	栄養の消化と吸収 2 小腸・大腸の構造と機能
4	栄養の消化と吸収 3 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能
5	呼吸と血液の働き 1 呼吸器の構造と呼吸運動
6	呼吸と血液の働き 2 ガス交換とガスの運搬
7	呼吸と血液の働き 3 呼吸運動の調節
8	呼吸と血液の働き 4 血液の組成と機能
9	血液の循環とその調節 1 心臓の構造、心臓の興奮とその伝播
10	血液の循環とその調節 2 心臓の収縮、心周期
11	血液の循環とその調節 3 血圧・血流量の調節
12	血液の循環とその調節 4 微小循環、リンパの循環
13	体液の調節と尿の生成 1 腎臓の構造、糸球体・尿細管・傍糸球体装置
14	体液の調節と尿の生成 2 糸球体濾過、クリアランス、排尿の機序
15	体液の調節と尿の生成 3 体液の調節

【履修上の注意事項】

教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。

【評価方法】

期末試験(100%)で判定する。

【テキスト】

解剖生理学（人体の構造と機能[1]） 、坂井建雄、岡田隆夫 医学書院

【参考文献】

なし。

解剖生理学II

担当教員 二科 安三

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人体各部の構造と機能を勉強する。本講義で中心となる臓器は自律神経系、内分泌系、骨と筋肉、生殖器官系、生体防御免疫系が中心となる。適切な教科書を指定するので、その7割程度は理解して他人に解説できるようになること。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	神経系の構造と機能 神経系の構造、興奮の伝導と伝達内臓機能の調節
2	自律神経による調節
3	内分泌による調節 1 ホルモンの構造、視床下部、下垂体
4	内分泌による調節 2 甲状腺、膵臓、副腎、甲状腺・副甲状腺
5	内分泌による調節 3 ホルモン分泌の調節、ホルモンによる調節
6	身体の支持と運動 1 骨と筋の構造
7	身体の支持と運動 2 体幹、上肢、下肢、頭頸部の骨格と筋身体の支持と運動
8	身体の支持と運動 3 筋の収縮
9	情報の受容と処理 1 中枢神経の構造と機能情報の受容と処理
10	情報の受容と処理 2 末梢神経の構造と機能
11	情報の受容と処理 3 脳の高次機能、運動機能、感覚機能
12	情報の受容と処理 4 特殊感覚の構造と機能
13	身体機能の防御と適応 1 皮膚の構造と機能、生体の防御機構
14	身体機能の防御と適応 2 体温とその調節
15	生殖・発生と老化のしくみ生殖

【履修上の注意事項】

教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。

【評価方法】

期末試験(100%)で判定する。

【テキスト】

解剖生理学Iと同じ教科書を使用する。

解剖生理学 人体の構造と機能 1、坂井建雄、岡田隆夫、医学書院

【参考文献】

なし。

解剖生理学III

担当教員 榎枝 洋記

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人体の構造と機能についての理解をより深めるために、本講義では生命活動の主役である細胞について知識を習得する。また、ライフサイエンスの医療への応用と課題について理解を深める。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	細胞の構造と機能
2	代謝と生体エネルギー
3	酵素
4	細胞分裂と細胞周期
5	細胞輸送
6	細胞膜電位と神経の興奮
7	細胞情報伝達
8	中間試験
9	組織と器官
10	生体の恒常性
11	生体防御
12	生殖と発生
13	幹細胞と再生医療
14	遺伝と遺伝子
15	遺伝子改变技術

【履修上の注意事項】

考えて理解すること。質問等、授業への積極的な参加を期待する。

【評価方法】

中間試験 (50%) 単位試験 (50%)

【テキスト】

解剖生理学Iと同じ。
解剖生理学、人体の構造と機能 1、坂井建雄、岡田隆夫、 医学書院

【参考文献】

適宜紹介する

病態生理学 I

担当教員 大河原 進

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

病態生理学は、疾病を正常機能の破綻や調節機能の異常の観点から原因解明し、病理学は、疾病の原因、機序、診断を明らかにする学問である。病態生理学 I では、解剖生理学で学んだ人体の正常な仕組みをきちんと理解していることを前提として、疾病の成り立ちを基本的な機序によって整理し、その結果引き起こされる組織や臓器の変化における正しい知識を身につけ、各種疾患における病態生理や臨床症状を理解するための基礎を総論的に学ぶ。専門用語を正しく理解し、臓器ごとの各種疾患の成り立ちを理解するための基礎を身につける。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	病理学で学ぶこと、病気の原因①:内因
2	病気の原因②:外因、細胞・組織の障害と修復
3	循環障害①:局所性
4	循環障害②:全身性
5	炎症
6	免疫と免疫不全
7	アレルギーと自己免疫疾患、移植と再試医療
8	感染症
9	腫瘍①:腫瘍の定義と分類、悪性腫瘍の広がりと影響
10	腫瘍②:腫瘍の発生病理
11	腫瘍③:腫瘍の寝台と治療、腫瘍の統計
12	代謝障害
13	老化と死
14	先天異常と遺伝子異常①:先天異常
15	先天異常と遺伝子異常②:遺伝子異常

【履修上の注意事項】

多くの専門用語が出てくるので、必ず教科書を予習してくること。復習も必ず行うこと。

【評価方法】

授業への積極性 (5%)、筆記試験 (95%) で総合的に評価する。60点以上を合格とする。

【テキスト】

(系統看護学講座、専門基礎分野) 疾病の成り立ちと回復の促進 [1] 「病理学」、大橋健一ほか編、医学書院

【参考文献】

1. 新クイックマスター「病理学」、堤寛監修、医学芸術社
2. 図解ワンポイントシリーズ3、「病理学 疾病のなりたちと回復の促進」、岡田英吉、医学芸術社

感染症学

担当教員 樋口 マキエ、三森 龍之

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

①ヒトは通常、どのような微生物と共生しているのか？常在正常細菌叢とその働き、②病気の原因となる微生物と寄生虫の分類と特性（構造、性質、病原性）③感染の成立と経過（代表的感染症の起因菌と臨床症状）について学ぶ。④医療現場における感染予防とその方法について学ぶ。⑤免疫・生体防御の機構、⑥抗病原微生物薬（殺菌薬、抗菌薬、抗真菌薬、抗原虫薬、抗ウイルス薬等）の微生物に対する作用と人体への作用（副作用）を学び、感染症に対する化学療法を理解する。化学療法薬の面から抗がん薬も付加して学ぶ。

【授業の展開計画】

【授業内容】

【授業担当者】【授業日程】

必修 看護学科 (2019) 10:50-12:20

1) 感染症学概論、常在正常細菌叢とその働き	(三森)	4/05 (金)
2) 病原微生物の分類と特性（構造、性質、病原性、感染機構）	(三森)	4/12 (金)
3) 細菌と感染	(三森)	4/19 (金)
4) 真菌と感染、	(三森)	4/26 (金)
5) ウィルスと感染、	(三森)	5/10 (金)
6) 寄生虫・原虫と感染	(三森)	5/17 (金)
7) 感染に対する生体防御機構(免疫)	(樋口)	5/24 (金)
8) 医療現場における感染防止対策 (感染管理認定看護師:熊大附病 手塚・樋口)		5/31 (金)
9) 化学療法薬について	(樋口)	6/07 (金)
10) 消毒薬(殺菌薬)について	(樋口)	6/14 (金)
11) 抗病原微生物薬の作用機序と使用の基本	(樋口)	6/21 (金)
12) 抗菌薬(抗生物質)	(樋口)	6/28 (金)
13) 抗菌薬(合成抗菌薬)、抗結核薬、抗真菌薬	(樋口)	7/05 (金)
14) 抗原虫薬、抗ウイルス薬	(樋口)	7/12 (金)
15) 抗がん薬	(樋口)	7/19 (金)
16) 単位修得試験	必修 看護学科 (10:50-12:10 80min) (樋口・三森)	8/02 (金)

【履修上の注意事項】

- 授業時には、指定の教科書とノートを持ってくる。講義内容の要点を書留め、その日の内に整理復習する。
- 講義プリントはファイルし、専門用語は正確に覚え、その概念を正しく理解する。
- 教科書2冊を精読し自己学習する。
①「わかる身につく病原体・感染・免疫」（主に4/05～6/28に使用）、
②「コメディカルのための薬理学 第3版」-第12章 感染症に対する薬物と消毒薬-（5/24～8/02）
- 教科書・参考書・プリント等を読んでも理解できないときは、教員に質問する。

【評価方法】

- 学期末の筆記試験（100%）は、授業時間に比例した配点で評価する。
講義1～6(40点)、7～15(60点)
- 授業への出席は最低要件であり、十分要件ではない。授業範囲の教科書内容は復習すること。
- 授業内容をよく聞いていて、正しく理解しているかで評価する。
- 意味不明な文章の解答は評価しない。

【テキスト】

- わかる身につく病原体・感染・免疫 3版（藤本 編、目野・小島 著、南山堂 2,800円）、3)教員プリント
- コメディカルのための薬理学 第3版（渡辺 他 編、朝倉書店 3,900円）-薬理学、病態生理学でも使用-

【参考文献】

- 微生物学(南嶋・吉田・永淵 著、医学書院 2,200円)
- 看護の基礎固め： 6. 微生物学編、4. 薬理学編（メディカルレビュー社 各1,600円）

薬理学

担当教員 未定、樋口 マキエ

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

薬物とは、生体の恒常性（ホメオスタシス）の破綻による生体機能の異常（病態）を正常範囲に戻そうとする目的で使用される化学物質である。疾病の予防、診断および治療に用いられる。日進月歩の薬物療法が、医療・保健・福祉の現場で適正に行われているか判断できるよう、各種の薬物を系統的に把握し理解する。基本的な薬理学の知識と論理的思考を学習し、副作用の発現防止に寄与する。

【授業の展開計画】

【授業内容】

原因療法薬（化学療法薬：抗病原微生物薬と抗がん薬）については、感染症学と病態生理学Ⅰで教授した。ここでは、対症療法薬について教授する。正常な人体の構造と機能および病態を復習しながら、人体に対する薬物の有益な作用と副作用およびその機序を、系統的に教授する。さらに、薬物の生体内運命を理解させ、対症療法薬の臨床応用および適用方法を把握させる。

【授業日程】

薬理学総論	平成30年度(火) 16:30-18:00
1. 薬とは、治験、薬と法令	9/25 (火)
2. 生体の情報伝達系（生体の信号と応答、情報伝達物質、受容体）、作用薬と拮抗薬	10/02 (火)
3. 生体に対する薬物の働きかけ：薬理作用、用量-反応関係	10/09 (火)
4. 薬物に対する生体の働きかけ：生体内の薬の動きと反応に影響を与える因子	10/16 (火)
5. エイジングと薬	10/30 (火)
生体の機能異常（病態）と薬	
6. 末梢神経系作用薬：自律神経作用薬（アドレナリン作動薬・遮断薬）	11/06 (火)
7. 末梢神経系作用薬：自律神経作用薬（コリン作動薬・遮断薬）	11/13 (火)
8. 末梢神経系作用薬：運動神経作用薬（筋弛緩薬）、感覺神経作用薬（局所麻酔薬）	11/20 (火)
9. 代謝・内分泌系作用薬：糖尿病治療薬、消化系作用薬：潰瘍治療薬	11/27 (火)
10. 免疫系作用薬：抗アレルギー薬、解熱鎮痛薬（NSAIDS）、ステロイド性抗炎症薬	12/04 (火)
11. 循環系作用薬：抗高血圧薬、利尿薬薬	12/11 (火)
12. 循環系作用薬：虚血性心疾患治療薬、抗血栓薬、抗不整脈薬	12/18 (火)
13. 循環系作用薬：心不全治療	1/08 (火)
14. 中枢神経系作用薬：全身麻酔薬、麻薬性鎮痛薬、睡眠薬	1/15 (火)
15. 中枢神経系作用薬：抗不安薬、抗うつ薬、抗精神病薬、抗パーキンソン病薬、抗てんかん薬	1/22 (火)
16. 単位修得試験	1/29 (火)

【履修上の注意事項】

- 1) ノートを各自用意し講義内容の要点を記す。その日の内に教科書を読み込み内容を整理・復習する。
- 2) 講義プリントはファイルし、薬理学授業時に、教科書、ノートと一緒に必ず持ってくる。
- 3) 専門用語は正確に覚え、その概念を正しく理解する。理解できないときは、質問する。
- 4) 授業参加は最低要件であり十分要件ではない。

【評価方法】

- 1) 学期末の本試験（100%：筆記試験）で評価する。前提条件は2/3以上の出席。
- 2) 「薬物療法の基礎知識を用い、論理的思考を展開できる」を評価基準とする。

【テキスト】

- 1) コメディカルのための薬理学 第3版(渡邊 他編、朝倉書店 3,700円)-感染症学、病態生理学Ⅰでも使用
- 2) 教員作成プリント

【参考文献】

- 1) 看護の基礎固め ひとり勝ち 薬理学（自律神経系） 片野/編 メディカルレビュー社 1,600円
- 2) 薬理学 最新版 吉岡、泉、伊関著、医学書院 2,300円
- 3) 『今日の治療薬2018』浦部、島田、川合編、南江堂

精神看護学 I

担当教員 未定、緒方 浩志、川原 一洋

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 精神医療における治療の考え方を知るとともに、精神医療の歴史と現代社会における「心のケア」の特徴について理解する。
- 主な理論が捉える人間の心のはたらきを人格という観点から概観し、精神的危機への援助を理解する。
- 精神医療における治療の意味を看護の視点から捉え、精神症状とおもな治療について理解する。
- 地域精神保健活動やチーム医療における精神看護の役割と課題について考える。

【授業の展開計画】

<実務経験のある教員>

上田智之：看護師として精神科勤務経験
緒方浩志：看護師として精神科勤務経験
川原一洋：精神科医として病院勤務経験

<展開内容>

- 精神障害の基本的考え方を知り、現代の精神保健および心の働きについて理解する。（未定）
- 人格の発達理論について学習し、ライフサイクルと精神的危機への援助について理解する。（未定）
- 欧米の精神医療の歴史的特徴からその時代の精神障害者に対する処遇の実態を知る。（未定）
- 日本の精神医療の歴史において精神保健福祉に関する法律がどのように成立してきたか理解する。（未定）
- 社会のなかの精神障害について理解する（法律、尊厳、人権、倫理）。（未定）
- 精神科病院における行動制限と法的根拠および看護の実際について学ぶ。（未定）
- 精神疾患を理解するために脳の機能と構造について学ぶ。（杉本）
- 精神医療における主な疾患の症状と治療についての考え方について理解する。（杉本）
- 精神医療における精神障害の診断と分類および主な疾患について理解する。（杉本）
- 関係のなかの人間について、家族やグループから考える。（未定）
- 精神医療における主な検査および心理療法について学ぶ。（未定）
- 気分障害患者の看護について学ぶ。（未定）
- その他の精神疾患患者の看護について学ぶ。（未定）
- 統合失調症患者の看護について学ぶ。（未定）
- 精神医療における治療と看護についてのまとめ。（未定）

【履修上の注意事項】

指定した教科書をよく読みキーワードを押さえ自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと。その日の講義で分からなかったことを明らかにして自ら疑問を解決する。

【評価方法】

定期試験90%、レポート等の提出物10%

【テキスト】

- 系統看護学講座、専門分野Ⅱ、精神看護学の基礎、精神看護学①、医学書院 2017.
- 系統看護学講座、専門分野Ⅱ、精神看護学の展開、精神看護学②、医学書院 2017.

【参考文献】

- 川野雅資：エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図、中央法規出版（株）、2011.
- 太田保之、上野武治編集：学生のための精神医学、医歯薬出版、第2版、2000.

精神看護学II

担当教員 緒方 浩志、未定

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 精神症状に対する看護援助の特徴と意義を理解し、患者がどのような点で生きにくさを感じているのか理解する。
- 入院から退院までの治療および看護について理解する。
- 精神障害とうまく付きあいながら地域で生活するために必要な社会資源などについて理解する。
- 精神看護における看護過程の展開について理解する。

【授業の展開計画】

- 精神科におけるケアについて学ぶ。(未定)
- 精神看護学で用いるおもな理論とプロセスレコードについて学ぶ。(未定)
- プロセスレコードの活用方法について学ぶ。(未定)
- 自己の体験した援助場面を一定の記載方法に基づいてプロセスレコードに再構成することができる。(未定)
- 当事者の話から対象者理解および精神看護について学ぶ。(特別講師)
- 精神科看護過程について学ぶ(情報収集および情報の整理)。(未定)
- 精神科看護過程について学ぶ(アセスメント、問題点の抽出、看護計画立案)。(未定)
- 精神科看護過程について学ぶ(看護過程の実際①)。(未定)
- 精神科看護過程について学ぶ(看護過程の実際②)。(未定)
- 精神科で行う治療プログラムについて学ぶ。(コミュニケーション技法、作業療法、認知行動療法) (未定)
- 精神科リハビリテーションと外泊・退院の援助について理解する。(未定)
- 継続看護の必要性と地域精神看護および社会資源の活用について理解する。(精神科訪問看護、精神科デイケア) (未定)
- リエゾン精神看護および看護師のメンタルヘルス。(未定)。
- グループでまとめた看護過程について発表し、精神科看護過程について理解を深める。(未定)
- 精神看護の目的と対象者についてまとめる。(未定)

【履修上の注意事項】

指定した教科書をよく読み、キーワードを押さえ、自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと。講義内容は専門性が高いので、学生の理解度に合わせて授業の展開方法を変更することがある。グループ・ワーク形式においては、積極的に参加し理解を深めること。

【評価方法】

定期試験90%、レポート等の提出物10%

【テキスト】

- 系統看護学講座、専門分野II、精神看護学の基礎、精神看護学の展開、医学書院 2017.
- 白石壽美子：全人的視点にことづく精神看護過程、医歯薬出版（株） 2014.

【参考文献】

- 長谷川雅美：自己理解・対象理解を深める『プロセスレコード』、日総研出版 2017.
- 岡田佳詠：看護のための認知行動療法、医学書院 2011.

看護学概論

担当教員 柴田 恵子、上妻 尚子、新 裕紀子、古江 佳織、古堅 裕章、

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

看護専門職としての自己の健康観、看護観を追及するために必要となる知識、概念を理解する。看護の対象および看護の提供、歴史・制度および将来の専門職の展望に関する知識から看護学について理解する。保健・医療・福祉専門職者として相応しい高い知識と優れた技術を身につける必要性を知る。

【授業の展開計画】

上妻、古堅、新、古城：看護師として病院勤務経験。柴田：養護教諭として学校勤務経験
第1回目のオリエンテーション時に、詳細な授業計画および本教科の履修について説明を行う。

週	授業の内容
1	オリエンテーション、看護学概論とは（柴田）
2	サービスとしての看護・看護サービス提供の場（新）
3	人間の欲求と健康、健康のとらえ方（上妻）
4	国民の健康状態（上妻）
5	看護の対象の理解（上妻）
6	国際化と看護（新）
7	災害時における看護（古堅）
8	小テスト1、ナイチングールについて（柴田）
9	医療安全と医療の質保証（古城）
10	職業としての看護・看護職者の養成制度と就業状況（古堅）
11	看護職者の教育とキャリア開発、看護職の養成制度の課題（柴田）
12	看護における倫理（柴田）
13	看護学概論9-12回のまとめ：小テスト、DVD視聴（柴田）
14	看護とはなにか（柴田）
15	グループワーク：医療職者における専門性、学習のまとめ（柴田）

【履修上の注意事項】

課題について考え、レポートを提出する。第1回目のオリエンテーション時に授業前・後の学習について説明をするので、具体的な学習方法を考え実践すること。課題レポートは授業前の事前学習であり、講義期間中の小テストはそれまでの学習の復習を兼ねた事後学習である。教科書の精読、レポート作成に要する時間は60分である。

【評価方法】

定期試験（筆記）：60%、学習態度・状況（小テスト、レポート提出、グループ活動の参加と発表）：40%。
フィードバックとして小テストは問題を確認することで学習に役立て、レポートは返却する。

【テキスト】

『系統看護学講座 基礎看護学（1）』茂野香おる 他（医学書院）

【参考文献】

隨時、紹介する。

看護技術 I

担当教員 柴田 恵子、上妻 尚子、新 裕紀子、古堅 裕章、古城 玲子

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義・演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

看護技術の対象となる生活者の理解を通して、看護実践に必要な基礎的援助技術を学び、保健・医療・福祉専門職として相応しい高い知識と優れた技術を身につける必要性を知る。

【授業の展開計画】

上妻、古堅、新、古城：看護師として病院勤務経験。柴田：養護教諭として学校勤務経験。

詳細な計画および担当者については、第1回目の講義で説明する。

1～15は講義予定、16～30は演習予定である。演習はグループに分かれて行うので、2回続きの内容の場合はグループ毎に学習内容が異なる。

週	授業の内容	週	授業の内容
1	オリエンテーション、コミュニケーション（柴田）	16	コミュニケーション（基礎担当者）
2	環境調整技術（柴田）	17	手洗い、ベッドメーキング（基礎担当者）
3	活動と休息援助技術（新）	18	体位変換、移送（基礎担当者）
4	排泄援助技術（古城）	19	排泄介助（基礎担当者）
5	食事援助技術（古堅）	20	食事介助（基礎担当者）
6	清潔援助技術（新）	21	ベッドメーキング、記録の確認（基礎担当者）
7	感染予防の技術（上妻）	22	陰部ケア・口腔ケア（基礎担当者）
8	衣生活援助技術（古堅）	23	清拭（基礎担当者）
9	ヘルスアセスメント（上妻）	24	無菌操作・滅菌物の取り扱い（基礎担当者）
10	バイタルサイン（上妻）	25	臥床患者のリネン交換（基礎担当者）
11	安全確保の技術（上妻）	26	バイタルサイン（基礎担当者）
12	苦痛の緩和・安楽確保の技術（上妻）	27	罨法、記録の確認（基礎担当者）
13	看護過程とは（柴田）	28	実技テスト（基礎担当者）
14	看護過程：看護記録（柴田）	29	洗髪（基礎担当者）
15	学習のまとめ、看護過程（柴田）	30	観察と報告：バイタルサイン（基礎担当者）

【履修上の注意事項】

講義、グループワーク、課題学習および発表、技術演習という学習方法によって学習を深める。第1回目のオリエンテーション時に「学習の進め方」で授業前・後の学習について説明をする。到達目標と自己評価を設定しているので、学習前後で確認する。また、事前・事後学習の課題はノート作成をすることで実施する。事前・事後学習およびノート作成にかかる時間は60分から90分である。

【評価方法】

定期試験（筆記）：60%、学習態度・状況（小テスト、レポート提出、実技試験）：40%

フィードバックとして事前・事後課題および作成したノートは、演習前に返却し、コメント内容については演習時

あるいは演習後に確認する。

【テキスト】

①『基礎看護技術 I・II』有田清子他（医学書院）②『基礎・臨床看護技術』任和子他（医学書院）③『ナーシング・ワーカップ』古橋洋子（文光堂）④『実践に役立つ看護過程と看護診断』三上れつ（スカラ・エリカ）

【参考文献】

『行でわかる基礎看護技術』、『なぜ？がわかる・看護技術LESSON』、『臨床看護技術ガイド』『考える基礎看護技術 I・II』、『ビジュアル看護技術・基礎看護技術』、『基礎看護学テキスト』、『看護技術ブックテキスト』

看護技術Ⅱ

担当教員 上妻 尚子、柴田 恵子、新 裕紀子、古江 佳織、古堅 裕章

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義・演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

看護の対象者に、安全・安楽な看護援助を実践するための日常生活援助技術および診療の補助技術に関する基本的な知識および技術を理解できる。

【授業の展開計画】

上妻、古堅、新、古江：看護師として病院勤務経験

第1回目の講義で詳細な計画を説明する。第9回・12回の講義時に小テストを行う。

16回から30回は演習を行う。演習は1クラスを2グループに分け、2つの演習項目を基礎看護実習室と424教室に分かれて実施する。演習は、各看護技術の実施方法のみならず実施前のアセスメントおよび実施後の評価についての学習を含む。看護過程の講義および演習は、別途詳細な授業計画の提示あり。

週	授業の内容	週	授業の内容
1	オリエンテーション・フィジカルアセスメント（上妻）	16	フィジカルイグザミネーション（担当者全員）
2	創傷管理技術（上妻）	17	A:創傷管理技術 B:採血（担当者全員）
3	症状・生体機能管理技術-検体検査-（柴田）	18	A:採血 B:創傷管理技術（担当者全員）
4	食事の援助技術-経管栄養法など-（古堅）	19	A:演習記録 B:経管栄養（担当者全員）
5	排泄の援助技術（浣腸・導尿など）（新）	20	A:経管栄養 B:演習記録（担当者全員）
6	与薬の援助技術の基礎（上妻）	21	A:皮下注射 B:浣腸・摘便（担当者全員）
7	与薬の援助技術の実際（上妻）	22	A:浣腸・摘便 B:皮下注射（担当者全員）
8	呼吸・循環を整える技術-酸素吸入-（上妻）	23	A:酸素 B:直腸内筋肉注射（担当者全員）
9	呼吸・循環を整える技術-吸引など-（上妻）	24	A:直腸内筋肉注射 B:酸素（担当者全員）
10	症状・生体情報モニタリングの技術（上妻）	25	A:口腔・気管内吸引 B:導尿（担当者全員）
11	診察・検査・処置の介助技術（上妻）	26	A:導尿 B:口腔・気管内吸引（担当者全員）
12	救命救急処置術（上妻）	27	フィジカルアセスメント（担当者全員）
13	死の看取りの技術（柴田）	28	実技試験（担当者全員）
14	看護過程 全体像の作成（柴田）	29	看護過程 計画立案（担当者全員）
15	看護過程まとめ 看護記録（柴田）	30	看護過程 計画の評価と修正（担当者全員）

【履修上の注意事項】

講義前はテキストを精読し提示された課題をする（90分）。講義後は提示された資料を基に復習する（90分）。

演

習前は、提示症例に対する援助計画を立案する（90分）演習後は、実施方法及びその評価を行う（90分）。演習時は、実習要項に準じて身だしなみを整えて参加する。看護技術学習ガイドを活用する。

【評価方法】

定期試験：60%、実技試験・小テスト・学習態度（演習記録の提出を含む）：40%

フィードバックとして事前・事後課題およびノートは、演習開始前に返却し、コメント内容は演習時あるいは演習

後に確認する。小テストは終了後に解説する。

【テキスト】

①「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ」有田清子（医学書院）②「基礎・臨床看護技術」任和子（医学書院）
③「ナーシング・ワークアップ」古橋洋子（文光堂）④「実践に役立つ看護過程と看護診断」三上れつ（スーザン・ヒル）

【参考文献】

「看護技術がみえる①・②」メディックメディア、「写真でわかる基礎看護技術①・②」インターメディカ、「ビジュアル臨床看護技術」照林社、「看護技術プラクティス」学研 他

臨床看護学総論

担当教員 柴田 恵子、上妻 尚子、新 裕紀子、古堅 裕章

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 健康障害をもつ人および健康上のニーズをもつ人の看護について理解する。2. 健康障害の「経過」に焦点をあて、患者の理解と必要な看護を学習する。3. 主要な症状の治療・処置についての理解を深め、必要な看護を学習する。4. 臨床看護についての学びを総括し、保健・医療・福祉専門職として相応しい高い知識と優れた技術を身につけるための自己の課題を明らかにする。

【授業の展開計画】

上妻、古堅、新：看護師として病院勤務経験。柴田：養護教諭として学校勤務経験。

第1回目のオリエンテーション時に、詳細な授業計画および本教科の履修について説明を行なう。

週	授業の内容
1	オリエンテーション、健康上のニーズをもつ生活者と家族（柴田）
2	主要症状を示す患者の看護：痛み、呼吸障害（上妻）
3	主要症状を示す患者の看護：意識障害、グループワーク（上妻）
4	主要症状を示す患者の看護：循環障害（上妻）
5	主要症状を示す患者の看護：消化・排泄障害（上妻）
6	健康状態の経過に基づく看護（柴田）
7	小テスト1、症状と看護について（上妻）
8	治療・処置を受けている患者の看護：輸液療法、化学療法（新）
9	治療・処置を受けている患者の看護：放射線療法・手術療法（古堅）
10	治療・処置を受けている患者の看護：創傷処置、集中療法（柴田）
11	看護過程：アセスメント（柴田）
12	小テスト2、看護過程：情報整理（柴田）
13	看護過程：これまでの学習のまとめとグループ発表（柴田）
14	看護過程：看護計画の立案（柴田）
15	まとめ：臨床看護学総論の学びの実践での活かし方（柴田）

【履修上の注意事項】

看護過程の学習は、同時期に開講される「看護技術II」の授業計画に合わせて行われるので、両方の科目の計画を確認してください。第1回目のオリエンテーション時に授業計画を発表するので、必要な学習は事前に各自が行なってくる。課題は授業の予習でもあるので、必ずレポートを作成することで課題を実施する。小テストはそれまでの学習の復習を兼ねた事後学習である。課題学習、レポート作成に要する時間は60分である。

【評価方法】

筆記試験：60%、学習態度・状況（小テスト、レポート提出）：40%。

フィードバックとして小テストは問題を確認することで学習に役立て、レポートは返却する。

【テキスト】

系統看護学講座 臨床看護総論、香春知永 他（医学書院）

【参考文献】

隨時、紹介する。

看護マネジメント

担当教員 福島 和代

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

質の高い看護を提供するための看護サービスのしくみやサービスを提供する専門職として必要な看護マネジメントの基礎知識を習得し、自分のキャリア発達について考えることができる。

【授業の展開計画】

福島：看護師として病院勤務経験

看護におけるマネジメントは、対象者に提供する最適なケアを調整・展開・評価することであり、そのための一連の活動である。対象者に提供される看護ケアのマネジメントと看護職が提供するサービス全体を組織としてとらえて提供する看護サービスのマネジメントがある。新人看護師であっても組織の一員として、専門職としての役割・責任が求められる。看護サービスを提供する専門職として必要な基礎知識を習得し、病院づくりのグループダイナミクスを通して自分のキャリア発達について考える。日時についての変更は、別途スケジュールを提示する。

- 第1回 看護マネジメントとは マネジメントのプロセス
- 第2回 看護管理過程 看護管理の歴史
- 第3回 組織の成り立ちと構造
- 第4回 看護のケア提供システム
- 第5回 医療関係職種とチーム医療
- 第6回 看護サービスと質の保障
- 第7回 リスクマネジメント（安全管理）
- 第8回 リスクマネジメント（感染管理） リーダシップとメンバーシップ
- 第9回 専門職と法・倫理
- 第10回 キャリア発達 レポート課題提示
- 第11回 医療制度と政策・診療報酬制度
- 第12回 グループワーク1：病院づくり（地域のニーズ、病院組織の理念、規模）
- 第13回 グループワーク2：病院づくり（どんな看護師を育てたいか）
- 第14回 グループワーク3：病院づくり（看護師のキャリア開発のためのシステム）
- 第15回 グループワーク4：病院づくり（全体発表、プレゼンテーション）

【履修上の注意事項】

教科書で事前学習をし(90分)、事後も講義資料と照らし合せて復習をすること(90分)。

グループワークでは、地域のニーズに応じた理想の病院づくりを行なうが、事前に就職パンフレットや病院ホームページから情報収集して望むこと(90分)。将来働きたい病院を想定し、既成概念にとらわれない自由な発想を重んじる。

【評価方法】

評価基準は「課題レポート90%、発表10%」とし60点以上を合格とする。

フィードバックとして、必要に応じてコメントする。

【テキスト】

系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践〔1〕 医学書院

【参考文献】

系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践〔2〕 医学書院 中西睦子編 看護サービス管理 医学書院、井部俊子/中西睦子監修：看護管理学習テキスト第1～8巻・別巻 日本看護協会出版会

小児看護学 I

担当教員 二宮 球美、松岡 聖美、未定

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 子どもを取り巻く社会環境の変化について学び、説明することができる。
2. 多様化する子どもと家族の健康ニーズについて理解できる。
3. 健全な子どもの特性、および成長発達過程を理解できる。

【授業の展開計画】

二宮球美 看護師として病院勤務経験を有する
松岡聖美 看護師として病院勤務経験を有する

週	授業の内容
1	小児看護学概論、小児とは、子どもの権利と家族、子ども虐待の理解ができる（二宮）
2	Physical Assessment が説明できる（松岡）
3	Physical Assessment が説明できる（松岡）
4	子どもを取り巻く社会、小児の観察、成長発達の一般原則と評価を理解できる（二宮）
5	小児に関わる理論を学び小児看護を学ぶ際に考えることができる（松岡）
6	子どもの遊びと行動 GW（二宮、松岡）
7	看護過程演習1事例の情報収集を体験する①事例のassessment（成長発達）（二宮、松岡）
8	看護過程演習1事例の情報収集を体験する②事例のassessment（現症）を体験する（二宮、松岡）
9	子どもの健康と保健を理解する（二宮）
10	技術演習①おむつ交換、着脱、抱っここの経験技術演習②栄養摂取離乳食の実際と与薬（二宮、松岡）
11	技術演習①おむつ交換、着脱、抱っここの経験技術演習②栄養摂取離乳食の実際と与薬（二宮、松岡）
12	健康レベルに応じたFamily Centered Care を理解する（二宮）
13	運動機能障害の観察の視点、ハンディキャップのある子どもへのCareを理解できる（二宮）
14	運動機能障害の観察の視点、ハンディキャップのある子どもへのCareを理解できる（二宮）
15	Preparation課題学習をもとに、ディストラクションなどを理解する（二宮、松岡）

【履修上の注意事項】

1年次の専門科目medical scienceなどの知識及び他の看護学の学習との関連なども含めて講義を進めます。各個人に必要な事前学習は最低指定ページを読むこと(60~120分)。副教材に関しては事前に渡すこと目標とする。小児看護学は既修専門及び共通科目と関連しているため、既修科目との統合をはかることも事前学習とする。小児看護実習、看護統合演習 I で、小児看護学の理論と実践の統合をはかることを前提に、事後の復習は科学的を根拠とする小児看護学として理解できるレベルを求める。

【評価方法】

単位取得資格:2/3以上の出席。 1. 定期試験試験 60%、小テスト20% 2. Report及び演習実施・Report 20%

【テキスト】

小児看護学①小児看護概論小児保健、小児看護学②健康障害を持つ小児の看護 編集松尾宣武、濱中嘉代 メディカルフレンド社、ナーシンググラフィカ小児看護学②小児看護技術 編集中野綾美 メディカ出版

【参考文献】

「看護診断ハンドブック」 リンダ J・カルペニート＝モイエ著 医学書院、小児看護技術編集今野美紀、二宮啓子、南江堂、子どもの病気の地図帳、監修鴨下重彦、柳澤正義、講談社 講義中に配布される印刷教材、DVD

小児看護学Ⅱ

担当教員 二宮 球美、松岡 聖美、未定

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 小児における主な疾患とその発達段階における特徴及びその疾患を持つ子どもの家族・社会的看護について学び説明できる
2. 子どもの権利を尊重し、健康の増進及び疾病の予防についての看護を学び説明できる

【授業の展開計画】

二宮球美 看護師として病院勤務経験を有する
 松岡聖美 看護師として病院勤務経験を有する
 田代祐子 看護師・専門看護師として病院勤務経験を有する

週	授業の内容
1	疾患看護の学習方法、染色体異常・先天代謝異常、新生児疾患とその看護を理解できる(二宮)
2	呼吸器疾患、循環器疾患を持つ患児の看護を理解できる①(松岡)
3	呼吸器疾患、循環器疾患を持つ患児の看護を理解できる②(松岡)
4	看護過程演習 ①情報のassessment関連図 ②看護問題抽出が紙上でできる(二宮、松岡)
5	看護過程演習 ③看護問題から看護診断へ④看護計画が紙上でできる(二宮、松岡)
6	技術演習①ネブライザー吸入②持続点滴下での乳児の沐浴 の援助を体験する(宮里、二宮、松岡)
7	血液疾患を持つ患児の看護を理解できる (二宮)
8	消化器疾患、腎疾患、内分泌疾患、代謝異常疾患、を持つ患児の看護を理解できる① (二宮)
9	消化器疾患、腎疾患、内分泌疾患、代謝異常疾患、を持つ患児の看護を理解できる② (二宮)
10	消化器疾患、腎疾患、内分泌疾患、代謝異常疾患、を持つ患児の看護を理解できる③ (二宮)
11	小児の救急とその看護、災害に遭遇した小児と家族の看護を理解できる、他 (二宮)
12	専門看護師小児看護特別講義 事例をもとに倫理を考える 田代祐子様(二宮)
13	脳神経、筋肉・骨疾患を持つ患児の看護を理解できる (松岡)
14	膠原病・アレルギー疾患、感染症、境界領域疾患を持つ患児の看護を理解できる① (二宮)
15	膠原病・アレルギー疾患、感染症、境界領域疾患を持つ患児の看護を理解できる② (二宮)

【履修上の注意事項】

11年次の専門科目medical scienceなどの知識及び他の看護学の学習との関連なども含めて講義を進めます。各個人に必要な事前学習は最低指定ページを読むこと(60~120分)。副教材に関しては事前に渡すこと目標とする。小児看護学は既修専門及び共通科目と関連しているため、既修科目との統合をはかることも事前学習とする。小児看護実習、看護統合演習Ⅰで、小児看護学の理論と実践の統合をはかることを前提に、事後の復習は科学的を根拠とする小児看護学として理解できるレベルを求める。

【評価方法】

単位取得資格:2/3以上の出席。 1. 定期試験試験 60%、小テスト20% 2. Report及び演習実施・Report 20%

【テキスト】

小児看護学①小児看護学概論小児保健 小児看護学②健康障害を持つ小児の看護 編集 松尾宣武、濱中嘉代
 メディカルフレンド社、ナーシンググラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 編者 中野綾美 メディカ出版

【参考文献】

監修川野雅資編集中村伸枝、PILAR、小児疾患診療のための病態生理1・2、第4版東京医学社、小児内科増刊、城ヶ端初子監修、実践に生かす看護倫理、他解剖生理学生化学等、新生児・小児疾患中山書店

成人看護学 I

担当教員 福島 和代、未定

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

成人看護学においては、成人期にある人およびその生活を理解し、健康の維持増進、疾病予防、疾病からの回復、ターミナル期の援助について学ぶ。成人看護学 I は、まず成人期の人の特徴、看護を展開するために必要な概念を理解して、急性期から慢性期にある人、ターミナル期にある人とその家族、手術を受ける人とその家族の健康問題と看護を学ぶ。さらに、生命維持の要である循環・呼吸機能に障害を持つ患者の看護を学ぶ。学修者は成人の特徴、ケアに必要な概念を理解し、各コマで講義する看護について説明できるようになる。

【授業の展開計画】

福島：看護師として病院勤務経験
杉野：看護師として病院勤務経験

下記展開で変更が生じた場合は、学生に変更計画を提示する。

回数	月日	時間	担当	内容
1回	4/5 (金)	5限 (福島)	オリエンテーション・成人期にある人の理解①成長発達の特徴②生活と健康観	
2回	4/12 (金)	5限 (福島)	成人期にある人の理解と看護③成人の学習の特徴④健康障害と看護	
3回	4/19 (金)	5限 (福島)	看護に有用な概念 (ストレス、危機他)	
4回	4/26 (金)	5限 (福島)	看護に有用な概念 (セルフケア、自己効力他)	
5回	5/10 (金)	5限 (福島)	手術を受ける患者の理解、手術侵襲・麻酔侵襲の理解	
6回	5/17 (金)	5限 (福島)	手術前の看護、手術中の看護	
7回	5/24 (金)	5限 (福島)	手術後の看護	
8回	5/31 (金)	5限 (杉野)	急性重症患者と家族の看護 生命の危機的状況にある患者と家族の看護	
9回	6/7 (金)	5限 (福島)	がんに罹患した患者と家族の看護	
10回	6/14 (金)	5限 (杉野)	循環器障害をもつ患者と家族の看護①虚血性心疾患の発生過程と看護	
11回	6/21 (金)	5限 (杉野)	循環器障害をもつ患者と家族の看護②心不全発生過程と看護	
12回	6/28 (金)	5限 (杉野)	循環器障害をもつ患者と家族の看護③循環器検査と治療後の看護	
13回	7/5 (金)	5限 (杉野)	呼吸器機能障害をもつ患者と家族の看護 ①感染症・気道疾患・呼吸不全の発生過程と看護	
14回	7/12 (金)	5限 (杉野)	呼吸器機能障害をもつ患者と家族の看護 ②慢性閉塞性肺疾患発生過程と看護	
15回	7/19 (金)	5限 (杉野)	呼吸器機能障害をもつ患者と家族の看護 ③肺がんで肺切除を受ける患者の看護	

【履修上の注意事項】

成人看護学の学習内容は広範囲であり、解剖生理学・病態生理学と治療、基礎看護学等の知識が基盤となる。よってそれらの内容を教科書で十分に予習して授業に臨むことが必須である(90分)。また、毎回の授業後には復習をし(90分)、丸暗記ではなく内容を理解し、曖昧な点は積極的に質問して解決しておく。学習内容は3年次の成人看護学実習と直結している。患者の看護は、自分のことばで説明できるように理解しておかなければ実践できない。質の高い看護を実践できる能力を身に着けるために主体的な学習姿勢を望む。。

【評価方法】

定期試験で(100%)評価する

【テキスト】

- ナーシング・グラフィカ 「成人看護学概論」メディカ出版
- 系統看護学講座専門分野 II 成人看護学
- 【2】～【14】医学書院
- 別巻 臨床外科看護総論 医学書院

【参考文献】

- ナーシング・グラフィカ 「セルフマネジメント」「健康危機状況」「周手術期看護」メディカ出版
- 「慢性期看護論」NOUVELLE HIROKAWA
- 「周手術期看護論」NOUVELLE HIROKAWA
- がん看護 医学書院

成人看護学Ⅱ

担当教員 川本 起久子、福島 和代、島村 美香、未定

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 3

準備事項

備考

【授業のねらい】

成人の多様な健康障害とその看護を学び、看護実践に必要な基礎知識を獲得することができる。健康障害を持つ成人患者の事例を通して具体的に看護過程の展開を理解できる。

【授業の展開計画】

川本・福島・島村：看護師として病院勤務経験
未定：

週	授業の内容	週	授業の内容
1	脳神経系に障害のある患者の理解 川本	16	点滴治療を受ける患者の看護 福島
2	脳神経系に障害のある患者の看護 川本	17	糖尿病を持つ患者の看護 川本
3	胃がん患者の看護 川本	18	糖尿病を持つ患者の看護 川本
4	大腸がん患者の看護 川本	19	腎不全患者の看護 川本
5	乳がん患者の看護 川本	20	腎不全患者の看護 川本
6	子宮がん患者の看護 川本	21	心筋梗塞の患者事例の理解 島村
7	造血機能に障害のある患者の理解 福島	22	看護過程① 島村
8	造血機能に障害のある患者の看護 福島	23	看護過程② 島村
9	免疫機能に障害のある患者の理解 福島	24	
10	免疫機能に障害のある患者の看護 福島	25	
11	運動機能に障害のある患者の理解 未定	26	
12	運動機能に障害のある患者の看護 未定	27	
13	肝機能に障害のある患者の理解 福島	28	
14	肝機能に障害のある患者の看護 福島	29	
15	肝機能に障害のある患者の看護 福島	30	

【履修上の注意事項】

成人看護学Ⅰ・Ⅱは、成人看護学実習Ⅰ・Ⅱと直結した学習内容である。臨地実習は、看護の対象者と直接かかわりを持ち実践行動を展開することで、理論と実践の結びつきを理解する重要な場面である。健康障害を持つ受け持ち患者様の回復過程を促進する看護を提供する前提是基礎的な知識と技術を身につけていることである。事前に教科書で各器の構造と機能を予習して望むこと(90分)、授業後は配布資料や教科書で復習をすること(90分)。

【評価方法】

評価基準は「試験 100%」で60点以上を合格とする。

【テキスト】

1. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学【2】～【14】 医学書院
2. 系統看護学講座別巻1 臨床外科看護総論 医学書院
3. 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版

【参考文献】

適時紹介する。

成人看護学III

担当教員 島村 美香、山本 みゆき

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

人生の最終段階にある患者が、尊厳をもち個人の特性に応じた人生を送ることができるための看護を学ぶ。

学習内容：1) 患者が抱く身体的・心理的・社会的・スピリチュアルペインを理解できる。

2) 患者が残された人生をその人らしく過ごすための意思決定支援について学ぶ。

3) QOLを高めるための援助について学ぶ。

4) 家族の不安や悲嘆を理解し、支援することの必要性を学ぶ。

【授業の展開計画】

島村美香：看護師として病院勤務経験

山本みゆき：看護師として病院勤務経験

1. 緩和ケアの概念 島村

2. スピリチュアリティとはなにか 山本・島村

3. スピリチュアルペインを理解する 山本・島村

4. 人生の最終段階にある患者の意思決定支援 島村

5. スピリチュアルケアの実践 山本・島村

6. 人生の最終段階にある患者の疼痛のアセスメント・コントロール方法と苦痛緩和のためのケア 島村

7. 人生の最終段階にある患者の身体的ケアと精神的ケアについて 島村

8. まとめ：緩和ケアに関するビデオ鑑賞後をとおして、人生の最終段階にある患者への向き合い方について考える 島村

【履修上の注意事項】

緩和ケアスペシャリスト・緩和ケア教育のコーディネータ、ホスピスケアの啓蒙、教育に携わり、

現在ヒーラーとして国内だけでなく海外でも活躍中の山本みゆき氏を非常勤講師として3コマ依頼している。

アメリカ・テキサス州在宅ホスピスナースなど多彩な実践を通しての話をよく聞いて看護に生かして頂きたい。

事前学習：講義内容の教科書項目を毎回熟読して講義に望むこと。

【評価方法】

課題レポートで評価を実施する。講義最終日のビデオ鑑賞して、課題についてのレポートを提出。60点以上(100点満点)を合格とする。なお、追試験は実施しない。

【テキスト】

系統看護学講座 別巻「緩和ケア」医学書院

【参考文献】

特に指定しません。

老年看護学 I

担当教員 生野 繁子、山本 恵子、未定、十時 彩、北原 崇靖

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. ライフサイクルの中で老年者をとらえ、老年者の特徴とその健康生活について理解できる。
2. 保健医療福祉制度の変遷と、高齢者を介護する家族の現状について理解できる。
3. 高齢者ケア提供の場と、ケア提供に係る専門職の役割について理解できる。
4. 高齢者の尊厳や人権を守り、高齢期のQOL向上の視点の重要性を理解できる。
5. 少子高齢・人口減少社会の我が国における老年看護の課題について理解できる。

【授業の展開計画】

生野 看護師として病院勤務経験

山本 看護師・保健師として病院勤務経験

十時 歯科衛生士として病院勤務経験

週	授業の内容	
1	導入・講義概要の説明・老年看護学の成り立ち (高齢者インタビュー課題の説明含む)	生野
2	高齢者の尊厳・高齢社会の変遷と高齢者の現状	生野
3	高齢者の保健医療福祉制度の変遷と世界の高齢化の現状	生野
4	高齢者の理解①老化の考え方・老化の特徴・感覚器の老化	生野
5	②運動器・筋・骨格の老化	山本
6	③循環器・呼吸器・消化器等の老化	生野
7	④精神・心理・社会的側面の老化	生野
8	⑤口腔・歯牙の老化とケア	十時・他
9	介護保険制度の理解①理念・保険者・被保険者・認定	生野
10	②サービスの種類と看護師の役割	生野
11	③地域包括ケアと制度の今後	生野
12	高齢者ケアの場と協働 病院・施設・在宅の連続性と多職種協働	生野
13	高齢者ケアの問題点 一人暮らしの増加・老々介護・高齢者虐待・家族支援	生野
14	高齢者の望む晩年の過ごし方・望まれる終末期ケアの在り方	生野
15	高齢者のフィジカルアセスメントとインタビューレポートについて・まとめ	生野

【履修上の注意事項】

- ・3年次臨地実習である老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ、および看護統合実習の先修科目である。
- ・第1回講義時に高齢者インタビューとアセスメントの視点を説明するので、具体的な高齢者をイメージして講義に臨むこと。この個別評価を10点分定期試験に加味し、全体講評を講義時に実施する。
- ・家族が住む自治体の介護保険等のパンフレットを入手し熟読(約30分)しておくこと。
- ・講義時に数回ミニテスト(学習用・評価には加味しない)を実施する。必ず復習(約30分)しておくこと。

【評価方法】

期末定期試験90%、課題レポート10%の割合で評価する。

【テキスト】

1. 新体系看護学全書「老年看護学概論・老年保健」メヂカルフレンド社
2. 「国民衛生の動向」厚生労働統計協会(1年次購入済み)

【参考文献】

1. 新体系看護学全書「老年看護技術」メヂカルフレンド社 2. 「高齢者の健康と障害」堀内ふき編メディカ出版
3. 統看護学講座専門19「老年看護学」医学書院

老年看護学Ⅱ

担当教員 山本 恵子、生野 繁子、未定、北原 崇靖

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

老年者に多くみられる症状・疾患の特徴を理解し、健康課題を見出すためのアセスメントができる。また、老年者における手術療法、薬物療法など治療上の注意点とケアが理解できる。さらに認知症の症状や終末期・看取りのケアについて説明ができる。

【授業の展開計画】

山本：看護師および保健師として病院勤務経験

生野：看護師として病院勤務経験

週	授業の内容
1	老年者の疾患の特徴：予備力低下、個別性など（山本）
2	老年者の入院・検査：入院経路、検査時の注意など（山本）
3	老年者の手術・退院：低体温・熱中症、搔痒、シームレスケアなど（山本）
4	老年者の薬物療法：多剤併用、代謝低下、管理（山本）
5	老年者に多い疾患：白内障、前立腺肥大症、誤嚥性肺炎など（未定）
6	老年者に多い疾患：骨粗鬆症、大腿骨頸部骨折など（山本）
7	症状アセスメント：低栄養、浮腫、電解質代謝異常など（生野）
8	症状アセスメント：不眠、失禁、便秘、難聴（山本）
9	高齢者ケア：高齢者看護の実際（特別講義）
10	演習：老年者へのインタビュー（山本、生野、未定他）
11	演習：老年者のヘルスアセスメント：アセスメント（山本）
12	老年者のヘルスアセスメント：対象理解に向けた老年者のアセスメント（山本）
13	終末期のケア：エンド オブ ライフケア（生野）
14	認知症とは：医学的視点での理解（山本）
15	認知症の看護：認知症ケア（山本）

【履修上の注意事項】

- ・講義中の私語が多い場合は、座席指定とします。チャイムが鳴り終わるまでに着席してください。
- ・演習も入れながら講義を行います。必要物品は事前に連絡します。
- ・出席は、毎回のレポートがなければ携帯登録があつても無効です。
- ・事前学習：老年看護学Ⅰを十分に復習すること。授業展開を参考に教科書を熟読し受講して下さい（30分）。
- ・事後学習：毎回、講義後は各自復習し理解を深めましょう（60分）。毎回、前回の復習問題もします。

【評価方法】

演習:10% 試験:90% フィードバックとして演習内容の解説を講義で行い、レポートは返却します。毎回のレポートについては、講義の冒頭にコメントを返します。

【テキスト】

『ナーシング・グラフィカ 老年看護学(2) 高齢者看護の実践』. 堀内ふき他. MCメディア出版. 2018

【参考文献】

『生活機能のアセスメントにもとづく老年看護過程』. 奥宮暁子他. 医薬学出版株式会社. 2012.
講義の中で適宜紹介する

関係法規

担当教員 野崎 和義

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 医療行為を中心とする現行医事法制の中で、コメディカルの法的位置づけを理解する。
2. 医療専門職である看護師に課せられた社会的責務と業務上の責任を理解する。
3. 各種医療専門職との協力、福祉従事者との連携のために必要とされる法を理解する。
4. 今日の医療制度の仕組みとその問題点を理解する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	市民の法と専門職の法——市民法の基礎、看護師の法的位置づけ
2	医療職と法——守秘義務と個人情報の保護、三層の法構造
3	医業の独占——医療行為、「業」による規制、医療行為の拡散
4	治療行為と同意（1）——医療行為と治療行為、同意能力、乳幼児と医療ネグレクト
5	治療行為と同意（2）——家族による同意、成年後見制度と治療同意権
6	診療の補助と医師の指示——具体的指示と包括的指示、メディカルコントロール
7	看護師と刑事責任（1）——終末期医療と家族
8	看護師と刑事責任（2）——チーム医療と信頼の原則、実習生による事故とその対応
9	チーム医療と民事責任（1）——民事責任の構造、医療従事者の注意義務
10	チーム医療と民事責任（2）——看護師の過失
11	身体拘束と看護事故——裁判例の分析、看護と介護
12	医療過誤と訴訟——訴訟の目的とその限界、医療ADRの取り組み
13	看護師と労働法——労働契約の特殊性、院内暴力・セクハラ
14	医療制度と法——医療制度改革、医療法の改正
15	コメディカルの業務と責任——医療者の義務、医事法の構造と射程

【履修上の注意事項】

- ・準備学習：各回のテーマに即して教科書を読んでおくこと。
- ・事後学習：講義で示された課題をもとに教科書および関連事項を整理すること。
- ・講義の進行は、理解度に応じて変更することがある。その際には、あらかじめ通知する。

【評価方法】

定期試験(100%)の成績によって評価する。

【テキスト】

野崎和義著『コ・メディカルのための医事法学概論』2011年、ミネルヴァ書房。

野崎和義監修『社会福祉六法』2019年、ミネルヴァ書房。

【参考文献】

適宜紹介する。

統計学

担当教員 森 信之

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

EBM(Evidence Based Medicine)、EBN(Evidence Based Nursing)などの言葉に代表されるように、得られたデータを客観的、論理的に分析し、その結果に基づいて意志・行動決定を行うという視点が医療従事者には必須となっている。そこで本講義では、確率論の基礎知識を踏まえた上で、データを分析する手法や手順、得られた結果の評価方法等を、なるべく多くの事例に関する演習を通して実践的に理解し、得られたデータから適切な分析手法を選択し、データ分析ができるようになることを目標とする。

【授業の展開計画】

01. 質的データと度数分布表・ヒストグラム
02. 量的データと代表値、分散
03. 正規分布、 t 分布、 χ^2 乗分布とその性質
04. 母平均・母分散・母比率の推定
05. 検定の考え方、第1種・第2種の過誤
06. 母平均の検定、対応のある2つの母平均の差の検定
07. 対応のない2つの母平均の差の検定
08. ノンパラメトリック検定（順位和検定）
09. ノンパラメトリック検定（符号検定）
10. ノンパラメトリック検定（符号付き順位和検定）
11. 母比率の検定（対応のある場合、ない場合）
12. 適合度の検定
13. 独立性の検定、マクネマー検定
14. 相関関係と相関係数
15. 回帰分析

【履修上の注意事項】

テキストはなく、配布プリントを配布するだけなので、事前の予習、事後の復習が要求される。特に、わからぬことは、わからないまままで済ませずに、遠慮なく質問に来るようにしてもらいたい。

【評価方法】

筆記試験の結果のみで判断する。再試験は行なう。

【テキスト】

プリント資料を配布する

【参考文献】

適宜紹介するが、図書館にも「統計学」で学内蔵書検索をすると、多くの蔵書が見つかる。実際に手に取ってみて、自分に合う参考図書を見つけてみるのもよいだろう。

公衆衛生看護学概論

担当教員 福本 久美子、中川 武子、未定

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義・演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

看護学における地域看護と公衆衛生看護の位置づけを理解し、公衆衛生看護学の基本的理念と目的、その対象や活動方法の特性について、基本的な知識と考え方を学習し、公衆衛生看護学の全体像が理解できる。

【授業の展開計画】

福本：保健師として保健所勤務経験

中川：保健師として保健センター勤務経験

週	授業の内容
1	看護学における地域看護と公衆衛生看護の位置づけ、継続看護
2	公衆衛生看護学の理念と目的
3	公衆衛生看護学の歴史
4	(未定) 公衆衛生看護の対象
5	中川 社会環境の変化と健康課題
6	福本 健康格差の要因と解決方法
7	福本・中川・(未定) 保健師活動事例を読み解き、公衆衛生看護と保健師の役割を学ぶ(GW)
8	(未定) 保健行動とヘルスリテラシー
9	(未定) 予防レベルと活動方法
10	福本・中川・(未定) 保健師活動事例を読み解き、公衆衛生看護と保健師の役割を学ぶ(GW発表)
11	福本・中川・(未定) GW(公衆衛生看護と保健師)のまとめ、コミュニティエンパワメント
12	中川 公衆衛生看護学の活動分野の特徴と広がり
13	福本(外部) 公衆衛生看護学の活動分野の特徴(行政・福祉)
14	福本(外部) 公衆衛生看護学の活動分野の特徴(産業)
15	福本・中川・(未定) 公衆衛生看護学の活動方法、国際協力、授業まとめ

【履修上の注意事項】

- 1) 講義の予習復習を行うこと(90分以上)。
- 2) グループワークや討論など参加型の手法を取り入れるため、授業以外の学習時間を活用し課題を整理することが必要になるため、学生間で調整を行い、グループ学習を進めること(180分以上)。
- 3) 学外での公衆衛生看護学関連の講演会等(紹介)に積極的に参加すること。

【評価方法】

レポート20点(止むを得ない場合を除き、期日まで提出がない場合は減点)、GW20点、試験60点
フィードバックはレポートの返却と講評を行うとともに、個別の質問に答える。

【テキスト】

1. [公衆衛生看護学概論] 標美奈子他 医学書院
2. [国民衛生の動向] 厚生統計協会

【参考文献】

1. 「健康格差社会 何が心と健康を蝕むのか」近藤克則著、医学書院
2. 「保健師一普通を守る仕事の難しさ」荘田智彦著、家の光協会
3. 「そよ風と暮らしづと健康」熊日出版
4. その他隨時紹介。

在宅看護学

担当教員 開田 ひとみ、落合 順子

配当年次 2年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

病気や障がいを持っていても住み慣れた地域の中で自分らしく生活できるように、自己決定に基づく自律・自立支援の重要性、及び、地域包括ケアシステムにおける看護の役割について理解を深める。
在宅療養者とその家族を取り巻く社会情勢、国の医療介護政策の動向を学び、在宅看護を展開するために必要な知識・技術・態度を習得する。

【授業の展開計画】

落合：看護師として病院勤務経験
田中：看護師として病院勤務経験
開田：看護師として病院勤務経験

週	授業の内容	週	授業の内容
1	少子高齢化社会と在宅看護(落合)	16	在宅看護における権利保障(開田)
2	地域包括ケアシステムと看護の役割(落合)	17	終末期の療養者への支援(開田)
3	在宅看護の対象者の特徴(落合)	18	呼吸器疾患療養者への支援(落合)
4	在宅看護における家族への支援(落合)	19	障害を持つ親と子への支援(落合)
5	在宅看護における社会資源(開田)	20	難病のある療養者への支援(田中)
6	療養の場の移行と多職種協働(開田)	21	精神疾患のある療養者への支援(落合)
7	訪問看護制度(落合)	22	認知症のある療養者への支援(田中)
8	介護保険制度(田中)	23	在宅看護過程とICF(落合)
9	在宅看護にかかる法令・制度(落合)	24	在宅看護過程：事例の理解(落合・田中)
10	慢性疾患のある療養者への支援(落合)	25	在宅看護過程：アセスメント(落合・田中)
11	在宅看護技術食事と嚥下・経管栄養(落合)	26	在宅看護過程：アセスメント(落合・田中)
12	在宅看護技術 褥瘡・排泄(田中)	27	在宅看護過程：計画(落合・田中)
13	在宅看護技術 人工呼吸器療法(落合)	28	在宅看護過程：計画(落合・田中)
14	在宅看護技術 在宅酸素療法(落合)	29	実習での展開方法(落合・田中)
15	リスクマネジメントと災害の備え(開田)	30	学習のまとめ：全体評価(落合・田中)

【履修上の注意事項】

学習進度に応じて提示された学習課題および、次回の講義内容を確認し教科書による予習(30分)復習(30分)を行うこと。

看護過程の演習はグループで行うため、メンバー間で協力して取り組むこと。

【評価方法】

客観テスト：60%

小テスト：30%

演習(看護過程)の提出物：10%

フィードバックとして小テストの解説を行い、演習記録物に対しては講義の冒頭にコメントを返します。

【テキスト】

系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 第5版(2019)， 医学書院

【参考文献】

適宜提示

母性看護学 I

担当教員 牛之濱 久代、未定、森口 範子

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人間の健康を性と生殖に関する側面から捉え、母性看護学の基盤となる概念について理解できる。

また、母性看護の現況と動向を概括し、家族を含めた母子を取り巻く環境を把握できる。

女性の生涯における発達課題と健康課題を理解した上で、母性看護の具体的な支援のあり方について述べることができる。

【授業の展開計画】

牛之濱：看護師、助産師として病院勤務経験、森口：看護師、助産師として病院勤務経験

①母性看護学の基盤となる概念や、母性看護領域における対象となる人々の特徴や健康現象についての基礎知識の修得、②性と生殖における健康と人生の各ステージにおけるセクシュアリティについての理解、③現代女性のライフサイクル各期における健康の諸課題やニーズをふまえた個人・家族に対する健康支援の在り方の学習

週	授業の内容
1	母性看護の概念とその特質：母性看護の特殊性、母性看護学学習のねらい 牛之濱
2	人間の性と生殖1：人間の性の特徴・性行動、人生の各ステージのセクシュアリティ 牛之濱
3	人間の性と生殖2：セクシュアリティの発達と課題、ヒトにおける性の決定、性的マイノリティ 牛之濱
4	女性生殖器の構造と機能：性周期とホルモン動態、受胎のメカニズム 牛之濱
5	社会と母性保健(1)：生活環境、母子保健統計の動向・母子保健行政のあゆみ、関係法規 牛之濱
6	社会と母性保健(2)：母子保健施策、女性の労働と子育て、母性看護の場と職種 牛之濱
7	母性看護の沿革と現況：日本の母性看護の発達—近代以前、近代以降、現代 牛之濱
8	リプロダクティブヘルス・ライツ：妊娠をめぐる女性の選択、母性看護における看護倫理 牛之濱
9	家族計画、避妊：受胎調節法と避妊法 牛之濱
10	女性・家族のライフサイクル：現代女性のライフサイクルと生涯発達、家族の発達段階 牛之濱
11	女性のライフステージ各期の特徴と保健(1)（思春期）月経異常、性感染症、人工妊娠中絶 森口
12	女性のライフステージ各期の特徴と保健(2)（成熟期）育児不安、DV、産後うつ、喫煙 未定
13	女性のライフステージ各期の特徴と保健(3)（更年期・老年期）更年期障害、尿失禁、骨粗鬆症 未定
14	出生前診断を受けるカップルの看護ケア、不妊カップルの理解と看護 森口
15	ハイリスクな状況にある人々への看護：危機援助、ハンディキャップをもつ母子への看護 未定

【履修上の注意事項】

講義初日に、授業展開日程表を配布するので、教科書を読み、その分野に関する内容を予習してくること（30分）。また、事後学習として授業資料内容を教科書や参考書と照らし合わせ復習しておくこと（40分）。

【評価方法】

期末試験 原則100%です。

【テキスト】

『系統看護学講座 母性看護学概論 母性看護[1]』医学書院、『系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護[2]』医学書院、『系統看護学講座 女性生殖器 成人看護学[9]』医学書院

【参考文献】

国民衛生の動向、前原澄子編集『新看護観察のキーポイントシリーズ母性I、母性II』中央法規
堀内成子編集『パーフェクト臨床実習ガイド 母性看護学第2版』照林社

母性看護学Ⅱ

担当教員 牛之濱 久代、森口 範子、未定、未定

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

周産期にある母子やその家族に生じるさまざまな変化と変化に伴う対象の反応を学び、セルフケア能力を高める援助、健康逸脱時のケア、安全な母性看護技術、看護過程の展開技術などについて修得することができる。

【授業の展開計画】

牛之濱:看護師、助産師として病院勤務経験、森口:看護師、助産師として病院勤務経験
女性のライフステージの中で最もダイナミックな身体的变化を起こす周産期の母体の健康状態は、母体のみならず胎児・新生児の発育や健康状態にも直接影響を及ぼす可能性が高い。本科目では、周産期における母性・胎児・新生児の健康保持・増進・異常の予防(保健相談、管理、看護技術)を修得する。また、ハイリスクな状況にある人々への看護(妊娠・分娩・産褥・新生児各期におこりやすい主な異常や疾患と看護)を理解する。

週	授業の内容
1	妊娠期の看護Ⅰ：妊娠成立と妊娠に伴う母体や胎児の変化、妊娠期の心理・社会的特性 森口
2	妊娠期の看護Ⅱ：妊婦と胎児の健康アセスメント、妊婦の健康管理、妊婦の日常生活とセルフケア 森口
3	妊娠期の看護Ⅲ：妊婦と家族の看護、親になるための準備教育 森口
4	分娩期の看護Ⅰ：分娩の三要素と正常分娩の臨床経過 未定
5	分娩期の看護Ⅱ：分娩第1, 2, 3期及び分娩直後の看護、産婦の安楽及び家族に対する看護 未定
6	新生児期の看護Ⅰ：新生児の生理的特徴と看護 未定
7	新生児期の看護Ⅱ：新生児期の異常と看護 未定
8	産褥期の看護Ⅰ：退行性変化、進行性変化、心理的変化・母親適応過程と看護 牛之濱
9	産褥期の看護Ⅱ：母子と家族に対する看護援助、母乳哺育支援、育児支援 牛之濱
10	ハイリスクな状況にある人々の看護Ⅰ：(妊娠期の異常と看護) 流早産、妊娠高血圧症候群等 森口
11	ハイリスクな状況にある人々の看護Ⅱ：(分娩期の異常と看護) 微弱陣痛、帝切、異常出血等 未定
12	妊娠褥婦のケア技術演習：妊婦健康診査、褥婦の健康アセスメント 牛之濱、森口、未定
13	新生児のケア技術演習：新生児の健康アセスメント、沐浴 牛之濱、森口、未定
14	母性看護過程：母性看護の特徴とウェルネス看護診断、事例による看護過程展開演習 牛之濱
15	母性看護過程：産褥早期の褥婦、新生児の看護事例展開演習、臨地実習で展開方法 牛之濱

【履修上の注意事項】

講義初日に授業展開日程表を配布するので、教科書を読みその分野を予習すること（30分）。授業資料内容について教科書や参考書を読み返し復習すること（40分）。演習課題についてレポートを作成し演習に臨むこと（120分）。

【評価方法】

期末試験 原則100%です。

フィードバックとして演習課題レポートにはコメントを入れて演習終了後返却します。

【テキスト】

『系統看護学講座 母性看護各論 母性看護[2]』医学書院、『系統看護学 母性看護概論 母性看護学[1]』医学書院、『系統看護学 女性生殖器 成人看護学[9]』医学書院

【参考文献】

『写真でわかる母性看護技術 アドバンス』『根拠と事故防止からみた母性看護技術』『ウェルネスからみた母性看護過程第2版』『病気がみえる⑩』『パーフェクト臨床実習が学ぶ母性看護学第2版』

基礎看護学実習

担当教員 柴田、上妻、新、落合、緒方浩、北原、島村、古堅、古城、森口、未定

配当年次 1～2年

開講時期 (1年) 2学期、(2年) 通年

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 3

準備事項

備考 本科目は1年次第2学期から2年次第2学期までの開講科目

【授業のねらい】

日常生活援助を中心とした看護アセスメントに基づく看護ケア実践の必要性を理解する。基礎看護学実習の経験を通して、他職種との連携、協力の必要性を考え、対象者の個性を尊重した支援に必要な能力を得るために自身の課題を見出す。

【授業の展開計画】

上妻・新・落合・緒方・北原・島村・古堅・古城・森口：看護師として病院勤務経験。柴田：養護教諭として学校勤務経験

実習目標

1. 看護職者の専門性を認識する。
 - (1) 看護の提供の場について知る。
 - (2) 他職種との連携のあり方について知る。
2. 看護ケアの必要性を理解する。
 - (1) コミュニケーションを通して患者を理解する。
 - (2) 日常生活の援助を実践することで看護ケアの必要性を理解する。
 - (3) 看護ケア実践におけるアセスメントの必要性を理解する。
3. 基礎看護学実習で学んだことを振り返り、自己の課題を明らかにする。

* 詳細については「臨地実習要項 ー基礎看護学実習ー」で確認すること。

【履修上の注意事項】

1. 必ず出席すること。実習中の欠席・遅刻は原則として認められない。
2. 単位取得ができない場合は、翌年度に履修することとなる。
3. 学生が誓約した内容を遵守しなかった場合、複数の教員（担当教員および科目責任者）が協議をした上で実習を中止する場合がある。
4. 予習、復習の具体的な内容はオリエンテーション時に指示する。実習記録等の学習時間は60分から90分である。

【評価方法】

基礎看護学実習 I (1年次)、II (2年次) を総合的に評価する。

実習内容 (学習・実践・記録) : 60%，提出・健康管理・実習態度 : 40%

フィードバックとして、カンファレンス、実習中及び実習後に行動目標に沿って面談を行う

【テキスト】

その都度、紹介する。

【参考文献】

その都度、紹介する。

小児看護学実習

担当教員 二宮 球美、未定、松岡 聖美

配当年次 3年

開講時期 1・2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

I 子どもの権利を尊重し対象である子どもとその家族の健康問題を学び理解することができる。健康な子どものセルフケア能力をアセスメントし支援を考え、社会における小児看護職の役割を考察する。

II 小児看護学の統合の場と位置付けられ、Critical Thinking, Communication, Assessment, Technical skills を習得し、実習をとおし問題解決能力を高めることができる。

【授業の展開計画】

二宮球美 看護師として病院勤務経験を有する

松岡聖美 看護師として病院勤務経験を有する

【小児看護学実習 I：保育所・園および小児看護学実習 II：病院、施設】

1. 実習期間：小児看護学 I (2日間)、小児看護学 II (8日間)

2. 実習場所：玉名・熊本市内の保育所・園および熊本県内の病院、重症心身障害児施設

3. 実習内容

1) 小児看護学実習 I

- ①健康な子どもの成長発達過程を理解し子どもの個別性、性差を理解することができる。
- ②成長発達に応じたcommunicationをはかり、こどもと人間関係を構築し、成長発達する過程で学習する集団保育・幼児教育に参加できる。
- ③子どもにとっての遊びの重要性を理解し、成長発達を促すかかわりができ、個・集団の違いを理解しかかわることができる。
- ④看護専門職としての視点で成長発達段階に応じた事故防止感染防止活動の援助ができ、学生の自己課題の明確化と継続的な学習能力を身につけることができる。

2) 小児看護学実習 II

- ①ライフサイクルの中での小児期を理解し、成長を促すためのcareを考えることができ成長発達、健康の状態に応じた看護を理解できる。
- ②小児の医療に必要な意義、方法を理解しfamily centerd careを理解できる。
- ③対象に応じたcommunication 技能と対人関係能力を学び、地域・医療・保健・福祉・教育との連携を理解し小児看護の役割の独自性を考察することができる。
- ④子どもとその家族に必要な社会的資源・福祉サービスを理解することができる。
- ⑤自己課題の明確化し説明できる。

【履修上の注意事項】

1. 実習要項を熟読し、事前学習(知識・技術など)を行って、実習で小児看護の対象者へ看護を展開できるような状態にして実習に臨むこと(事前課題を段階的に提示する各3時間程度)2. 必ず出席すること、実習中の欠席・遅刻・早退、それに準ずるものは原則として認めない3. 学生が誓約した内容を遵守(大学との契約、臨地との契約など)4. 単位修得ができない場合は、翌年度に履修することになる。5. 事後学習でライフステージにおける小児看護学と実践の統合をすること。

【評価方法】

単位取得資格条件：2/3以上の出席

1. 実習態度：50% (準備性、実施状況、個別性、応用性、修正の度合いなど)

2. 実習記録とカンファレンス：50% (具体性、個別性、独自性、安全・安楽への取り組みなど)

※実習要項に示した自己評価と指導者および教員による評価を総合して、会議後評価判定する。

【テキスト】

「看護学実践 小児看護学」編集 中村伸枝 PILAR PRESS、「看護診断ハンドブック」リンダ J・カルペニート＝モイエ著 医学書院、その他看護に関連した共通科目・専門科目で用いたテキスト全て HPup資料も含む

【参考文献】

- ・『小児看護』2000.8-クリニカル・サインのチェックポイントー. へるす出版・medical science関連教科書
- ・小児看護学の教科書・参考書・授業中使用の印刷教材・資料、HP資料 など全て

成人看護学実習 I

担当教員 福島 和代、未定、川本 起久子、島村 美香、未定

配当年次 3年

開講時期 1・2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 3

準備事項

備考

【授業のねらい】

成人期にある患者とその家族のもつ健康問題を全人的に理解し健康の段階に応じた最良の状態を生み出すための看護を学ぶ。看護過程の展開を通して根拠に基づいた看護の実践ができる基礎能力と、人間の尊厳および人権の擁護の重要性を理解し看護者として倫理的に判断し行動できる基礎能力を養う。

実習 I は周手術期を通して健康状態が急激に変化する患者とその家族のもつ健康問題を総合的に理解し、受け持ち患者に対して看護過程の展開ができるようになる。

【授業の展開計画】

福島、未定、川本、島村、未定：看護師として病院勤務経験

1. 病態、検査、治療、経過、発達課題について患者状態を把握し、患者の病態、治療、手術後に予測される問題について理解を深める。
2. 患者情報を系統的に収集し手術が患者の心身にどのような影響を及ぼすかを予測して健康問題を明確化し看護計画を立案する。最善の状態で手術が受けられるように準備を整える。
3. 手術後の危機状態にある患者に対して、生命の維持、安全・安楽の確保、精神的支援のための看護を計画立案できる。
4. 回復期における患者の状態を理解し、早期離床、セルフケアに必要な看護を実践する。
5. 退院後の生活を予測して残存機能を最大限に活用した自立への援助と家族を含めた指導を行う。
6. 周手術期の各段階において、患者が治療や健康の回復に向けて主体的に取り組めるような看護過程が展開できたか評価する。
7. 看護者としての倫理的配慮ができ、医療チームの一員としての自己の役割を自覚した行動がとれる。

＜臨地実習計画＞

1週目の主な学習内容

コミュニケーション
情報収集 アセスメント

2週目の主な学習内容

看護問題 計画の明確化
看護介入 評価

3週目の主な学習内容

計画の修正・追加 評価

看護過程の評価

【履修上の注意事項】

実習直前のグループ別オリエンテーションに必ず参加する。

実習病棟の特色を知り、疾患・検査・治療・看護について事前学習を行ったうえで実習に臨む(90分以上)。

実習後は看護の振り返りを行い、指導を受けた内容についてケアの意味づけを行い、自己の課題を明確にして対応策を考える(90分)。

体調管理を行い、流行性疾患に罹患しないよう注意する。

【評価方法】

評価は、実習評価表に基づき、「受け持ち患者の看護過程の展開と実習記録 80%、チームの一員としての行動 20%」とし、60点以上を合格とする。

フィードバックとして、必要に応じて面接を行う。

【テキスト】

系統看護学講座 成人看護学【2】～【14】 医学書院 系統看護学講座別巻1 臨床外科看護総論 医学書院の教科書および講義資料。

【参考文献】

周手術期看護論 NOUERU HIROKAWA. 周手術期看護 学習ワークブック メディカルフレンド社. 病気がみえる MEDIC MEDIA. 看護師・看護学生のためのリューブック MEDIC MEDIA. 病態生理ビジュアルマップ 医学書院。

成人看護学実習Ⅱ

担当教員 福島 和代、未定、川本 起久子、島村 美香、未定

配当年次 3年

開講時期 1・2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 3

準備事項

備考

【授業のねらい】

成人期にある患者とその家族のもつ健康問題を全人的に理解し、健康の段階に応じた最良の状態を生み出すための看護を学ぶ。看護過程の展開を通して根拠に基づいた看護の実践ができる基礎能力と、人間の尊厳および人権の擁護の重要性を理解し看護者として倫理的に判断し、行動できる基礎能力を養う。成人看護実習Ⅱでは、慢性の疾患を有する患者とその家族のもつ健康問題を総合的に理解し、受け持ち患者と家族が主体的に病気を管理し、生活の再調整ができるような看護過程が展開できるようになる。

【授業の展開計画】

福島、未定、川本、島村、未定：看護師として病院勤務経験

1. 慢性の疾患は主に生活習慣との関係から徐々に健康を障害していく。生活習慣は環境(自然・社会・文化)の影響を強く受けている。慢性の疾患を有する患者の病態を環境との相互作用の観点から理解する。疾患の診断・治療に必要な検査の目的・意義を理解し、看護の役割を学ぶ。
2. 患者情報を系統的に収集し慢性の疾患を有する患者の健康障害の程度やセルフケア能力をアセスメントし看護問題を明確化する。
3. 患者と家族の強み(主体的に病気を管理できるようなポジティブな面)を生かした看護計画を立案する。
4. 患者の安全と治療的環境を維持し、立案した計画に基づいて、家族にも配慮しながら看護を実践する。
5. 退院後の生活を予測して在宅療養に必要なリハビリテーションを理解できる。また社会生活に適応するため患者が主体的に自己管理できるよう家族を含めた援助を行う。
6. 慢性の疾患を有する患者が主体的に病気を管理できるような看護過程が展開できたか評価できる。
7. 看護者としての倫理的配慮ができ、医療チームの一員として自己の役割を自覚した行動がとれる。

＜臨地実習計画＞

1週目の主な学習内容

コミュニケーション	
情報収集	アセスメント
看護問題	計画の明確化
看護介入	評価
計画の修正・追加	評価
看護過程の評価	

2週目の主な学習内容

3週目の主な学習内容

【履修上の注意事項】

実習直前のグループ別オリエンテーションに必ず参加する。

実習病棟の特色を知り、疾患・検査・治療・看護について事前学習を行ったうえで実習に臨む(90分以上)。

実習後は看護の振り返りを行い、指導を受けた看護の意味づけを行い、自己課題を明確にして対応策を考える(90分)。

体調管理を行い、流行性疾患に罹患しないよう注意する。

【評価方法】

評価は、評価表に基づき「受持ち患者の看護過程の展開と実習記録 80%、チームの一員としての行動 20%」とし、60点以上を合格とする。

フィードバックとして、必要に応じて面接を行う。

【テキスト】

系統別看護学講座 成人看護学【2】～【14】医学書院 糖尿病食品交換表 第7版 の教科書及び講義資料。

【参考文献】

看護師・看護学生のためのリピューブック MEDIC MEDIA 病態生理ビジュアルマップ 医学書院 病気がみえる MEDIC MEDIA 慢性期看護論 NOUVELLE HIROKAWA 患者教育のガイド 医学書院 がん看護 医学書院

老年看護学実習 I

担当教員 生野 繁子、山本 恵子、未定、北原 崇靖

配当年次 3年

開講時期 1・2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

実習目的 介護老人保健施設における医療・機能訓練・看護が必要な利用者への理解を深め、健康課題に対するケアの在りかたを学ぶ。

実習目標 実習要項を参照すること

【授業の展開計画】

生野 看護師として病院勤務経験

山本 看護師・保健師として病院勤務経験

介護老人保健施設における実習2週間を設定している。詳細は実習要項を参照すること。

施設 : 実習施設一覧を参照すること

実習配置: 6~7施設に2~5名ずつ配置する。

2週間の実習スケジュールは実習要項に記載している。

【履修上の注意事項】

1. 実習要項を熟読し、準備段階から主体的かつ積極的に学ぶこと。
2. 実習要項に記載している事前学習(60~120分)を十分に実施しておくこと。
3. 健康には特段の注意をして、実習に臨むこと。
4. 臨地において当日の実習計画(約30分)がないものは実習できない。
5. 実習終了後には、復習(約30分)として老年看護学領域の国家試験過去問題を解いてみること。

【評価方法】

実習評価表に基づいて、老年期の特徴理解(10%)、アセスメント(30%)、社会復帰の理解(5%)、ケアサービスの理解(30%)、職業倫理(25%)の割合で評価する。

【テキスト】

老年看護学 I・II で使用したもの

【参考文献】

1. 老年看護学 I・II の参考文献
2. 基礎看護学のテキスト
3. 成人看護学のテキスト
4. 病態生理学 I・II・III のテキストなど

老年看護学実習Ⅱ

担当教員 山本 恵子、生野 繁子、未定、北原 崇靖

配当年次 3年

開講時期 1・2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

実習目的 介護老人福祉施設におけるケアサービスを通して、施設の利用者への理解を深め、健康課題に対するケアのあり方を学ぶことができる。

実習目標 高齢者とのコミュニケーションを図ることができる。施設利用者の家族状況が理解できる。

高齢者の健康課題をアセスメントし、必要なケアを安全に実施することができる。

高齢者へのケアサービスを理解し、実践することができる(詳細は臨地実習要項参照)

【授業の展開計画】

山本：看護師・保健師として病院勤務

生野：看護師として病院勤務

介護老人福祉施設における臨地実習2週間を設定している。施設名および進め方の詳細などは臨地実習要項参照。

実習配置：実習クール毎に、各施設に2～6名ずつ学生を配置し実習を行う。

進め方：1週目の月火 …学内オリエンテーション、
入所または通所でのケアの理解、多職種のケア経験、受け持ち利用者の決定
1週目の水木 …受け持ち利用者の情報収集、ケアなど
1週目の金 …学内で施設ケア理解の確認、利用者アセスメント、個別指導
2週目の月～木 …受け持ち利用者のケア
2週目の金 …他の施設での学びを共有、学びの確認、個別面接

【履修上の注意事項】

1. 健康には特段の注意をして、実習に臨むこと。
2. 高齢者に対する尊厳および臨地実習要項に記載してある実習上の注意などを熟読し主体的かつ積極的に実習に臨むこと。
3. 事前学習：臨地実習要項の項目および看護技術など実習に必要な関連科目の復習し実習に臨む (30分)
4. 事後学習：実習での学びを各自振り返り、自身の課題を整理し次の実習につなげる (60分)

【評価方法】

臨地実習要項に掲載している実習評価表に基いて、コミュニケーション20%、高齢者アセスメント35%、ケアサービス25%、職業倫理20%で評価する。実習期間中に口頭および実習記録にコメントを返します。

【テキスト】

老年看護学Ⅰ・Ⅱと同様。

【参考文献】

1. 老年看護学Ⅰ・Ⅱの講義において配布した資料および参考文献
2. その他既習のテキスト

精神看護学実習

担当教員 未定、緒方 浩志

配当年次 3年

開講時期 1・2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

実習目的は、精神看護学で学んだ知識をもとに、精神症状によって「生きにくさ」を感じている対象者と家族への援助の必要性を認識し、その対象者に合った援助を実施・評価すること。また、これらの援助を通して精神保健看護に必要な基本的能力を養うこととする。実習目標は、実習要項を参照すること。

【授業の展開計画】

精神医療施設における実習2週間を設定している。詳細については、実習要項を参照すること。

施設名：荒尾こころの郷病院、向陽台病院、城ヶ崎病院、山鹿回生病院（50音順）

実習配置：5グループのローテーションとする。

- ・4病院に分け、さらに各病棟2～4名ずつの配置とする。
- ・施設における実習を主とし、学内日は別途指示した日とする。

【履修上の注意事項】

1. 6月中旬に提示する事前学習項目に沿って学習し、レポートを作成し提出する。事前学習をした内容は実習中に活用すること。
2. 事前に行われるオリエンテーションを必ず受けること。（日程は後日掲示する）
3. 自己の心身の健康管理に努め、実習を休まないように留意する。また、患者の個人情報に関しては看護学生として良識ある行動をとること。

【評価方法】

実習評価表に基づいて総合的に評価する。

【テキスト】

精神看護学I、IIの講義で使用したもの。

【参考文献】

1. 精神看護学I、IIの参考文献 2. 基礎看護学のテキスト、3. 成人看護学のテキスト
4. 病態生理学I、II、IIIのテキストなど。

在宅看護学実習

担当教員 未定、落合 順子

配当年次 3年

開講時期 1・2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

住み慣れた地域で療養生活を送る人々とその家族の生活を理解し、多職種協働による看護の実際を訪問看護ステーションを中心とした実践活動から学ぶ。また、地域包括ケアシステムにおける看護の役割を考察することができる。

【授業の展開計画】

落合：看護師として病院勤務経験

【実習目的】

1. 人権尊重を基盤とした人の暮らしと、健康を創るための法律や関連機関との連携及び継続看護の重要性を実例から学ぶ。
2. 地域の中で健康障害をもちらながら療養生活をする人々やその家族を理解し、在宅における看護の機能と役割について訪問看護師の実践活動から学ぶ。

【実習目標】

- 1) 在宅療養者とその家族の生活と主体性を尊重しQOLの向上をめざす看護活動を理解する。
- 2) 在宅療養者とその家族への援助の実際を通して訪問看護の役割とその援助方法を理解する。
- 3) 在宅看護に必要な社会資源の活用とケアマネジメントの重要性を理解する。
- 4) 在宅看護に関連する保健・医療・福祉専門職との連携の重要性と看護職の役割を理解する。
- 5) 看護を展開するまでの自己課題を明確にすることができます。

【実習展開】

「臨地実習要項」参照

【履修上の注意事項】

実習開始前に提示される課題と学習項目については予習を行うこと（60分）。

「臨地実習要項」を実習開始前および実習中よく目を通し、実習で体験した内容は既習内容と照合しながら毎日復習すること（60分）

【評価方法】

実習要項に提示してある評価表に基いて、実習記録（85%）、課題レポート（15%）の割合で評価を行う。随時面談を行いフィードバックする。

【テキスト】

- ・「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」 医学書院
- ・科目「在宅看護学」で配布した資料や提示した参考文献

【参考文献】

- ・随時提示

母性看護学実習

担当教員 牛之濱 久代、未定、森口 範子、未定

配当年次 3年

開講時期 1・2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

リプロダクティブヘルス／ライツの概念を理解し、母性看護学Ⅰ、Ⅱで学んだ知識・技術を実習を通して統合し、母性看護の特殊性を考慮した看護の実践ができる基礎能力や態度を養うことができる。

【授業の展開計画】

牛之濱：看護師、助産師として病院勤務経験
森 口：看護師、助産師として病院勤務経験

【教育目標】

1. 周産期の母子とその家族の身体的・心理的・社会的特性を理解し、適応の過程を明らかにすることができます。
2. 周産期の母子とその家族に関する情報を収集分析し、看護計画に基づき安全・安楽を考慮した看護を実践し評価できる看護過程を展開できる。
3. リプロダクティブヘルス／ライツの観点から、周産期における女性・子ども・パートナーの健康課題を踏まえ、対象者の生涯を通じた健康教育・ケアのあり方を考察できる。
4. 母子と家族の健康に関わる看護者の役割と責任を自覚した行動をとり、母子保健医療チームメンバーとして連携・協力する方法を考察できる。
5. 自己の学習過程を振り返り、今後の学習課題を明らかにすることができます。

【授業内容】

1. 出産前後の母児の受け持ちや外来を訪れる妊婦や母児との関わりを通して、妊産婦や母児の体験を学習する。
2. 看護師／助産師とともに行動し、妊産婦および新生児や家族に対してどのような看護ケアが行われているのかを学習する。
ex. 補婦の観察・悪露交換・乳房ケア・授乳指導・新生児の観察・沐浴・育児支援・妊婦健診・胎児管理(NST)・母乳外来・母親学級など
3. 受け持ち対象母児の健康課題について、情報収集・分析・看護計画の立案・実施・評価を行う。
4. カンファレンスを通して学びの共有を図り、学習を深める。

【履修上の注意事項】

事前準備として、ワークブック（一人の妊婦の妊娠期から産褥期までの経過を追った看護の問題集）、看護過程レポートを仕上げ、実習直前にもその内容を復習して実習に臨むこと(4時間)。
また、実習で実施する母性看護術についても事前に十分演習を行い実習に備えてください(4時間)。

【評価方法】

1. 実習目的・目標の達成度（役割理解、看護過程、実践・記録、課題の明確化）80%
2. 実習態度（予習・復習、主体性・積極性、カンファレンス参加状況、記録物の提出）20%
3. フィードバックとして、ワークブック、看護過程レポートにはコメントを入れ、返却します。

【テキスト】

系統看護学講座『母性看護学概論、母性看護学①』医学書院、系統看護学講座『母性看護学各論、母性看護学②』医学書院、系統看護学講座『女性生殖器、成人看護学⑨』医学書院

【参考文献】

『根拠と事故防止からみた母性看護技術』『写真でわかる母性看護技術アドバンス』『パーソナライズされた母性看護学』『ウェルネスからみた母性看護過程』『病気がみえる⑩』